

令和4年度

公益財団法人荒川区自治総合研究所

事業報告書

自 令和4年4月 1日
至 令和5年3月31日

公益財団法人荒川区自治総合研究所

I 庶務事項

1 役員等の異動

年月日	役職	氏名	適用
令和4年5月24日	理事	西川 太一郎	再任
令和4年5月24日	理事	藁谷 友紀	再任
令和4年5月24日	理事	猪狩 廣美	再任
令和4年5月24日	監事	利根川 弘衛	再任
令和4年5月24日	監事	笹島 健司	再任

令和4年5月24日の理事会において、西川理事及び藁谷理事が代表理事に選任されるとともに、西川理事が理事長、藁谷理事が副理事長に選定された。

2 理事会の開催

回	開催等月日	決議及び報告事項
第1回	令和4年 5月9日 (決議の省略)	議決事項 1 令和3年度事業報告について決定する。 2 令和3年度収支決算について決定する。 3 令和4年度第1回評議員会の招集について決定する。
第2回	令和4年 5月24日 (決議の省略)	議決事項 1 理事 西川太一郎氏を代表理事に選任するとともに、理事長とする。 2 理事 藁谷友紀氏を代表理事に選任するとともに、副理事長とする。
第3回	令和4年 9月1日	報告事項 1 令和3年度荒川区自治総合研究所の主な活動状況について報告する。 2 令和4年度荒川区自治総合研究所の前期活動の状況について報告する。

回	開催月日	決議及び報告事項
第4回	令和5年 2月27日	議決事項 1 令和5年度事業計画について決定する。 2 令和5年度収支予算について決定する。 3 令和5年度における資金調達及び設備投資について決定する。 4 令和4年度第2回評議員会の招集について決定する。
		報告事項 1 令和4年度荒川区自治総合研究所の活動状況について中間報告する。

第3回及び第4回の理事会については、会場でWEB会議システムを併用し、開催した。

3 評議員会の開催

回	開催月日	決議及び報告事項
第1回	令和4年 5月24日 (決議の省略)	議決事項 1 令和3年度収支決算について承認する。 2 西川太一郎氏を理事に選任する。 3 藁谷友紀氏を理事に選任する。 4 猪狩廣美氏を理事に選任する。 5 利根川弘衛氏を監事に選任する。 6 笹島健司氏を監事に選任する。
		報告事項 1 令和3年度の事業について報告する。
第2回	令和5年 3月13日	議決事項 1 令和5年度事業計画について承認する。 2 令和5年度収支予算について承認する。 3 令和5年度における資金調達及び設備投資について承認する。
		報告事項 1 令和4年度の荒川区自治総合研究所の活動状況について中間報告する。

Ⅱ 事業実施の状況

1 調査研究・政策立案支援事業（定款第4条第1項第1号事業）

（1）荒川区民総幸福度（GAH）に関する研究

① 趣旨

- ・「幸福実感都市あらかわ」の実現に向けて、荒川区民総幸福度（以下「GAH」という。）に関する調査研究を行った。GAHの研究については、荒川区民の幸福度を測る指標化の側面と、区民をはじめ荒川区に関わるすべての人や団体等が幸福について共に考え、地域の幸福のための活動につなげていく運動の側面を踏まえ取り組んだ。

② 調査研究の概要

- ・ 区民の幸福実感を調べるため、「健康・福祉」「子育て・教育」「産業」「環境」「文化」「安全・安心」の6つの分野のGAH指標を用いたこれまでのGAH区民アンケート調査の結果について、46指標の属性別に見た平均実感度についてデータ集を作成し、庁内に共有した。
- ・ 幸福実感度と自由記述の関係性について分析を行うとともに、令和3年度に実施したGAH調査の結果を分析し、コロナ前、コロナ禍における幸福度にどう変化があるのか、また、属性別に各指標の実感度の変化に違いはあるのかなどについて分析を進めた。
- ・ 加えて、これまで実施してきたGAH調査の回答結果等を踏まえながら、GAH指標の検証に向けて視点の整理を行った。

（2）コロナ禍における区民の生活習慣と意識変化に関する研究

- ・ 本研究は、新型コロナウイルス感染拡大が区民の生活習慣や意識にどのような変化が生じたのかを明らかにし、これらの変化がもたらす課題と、今後、区に求められる施策の方向性について考察し、提言することを目的としている。
- ・ 具体的には、令和2年度の区政世論調査でコロナ禍による生活習慣やストレスの変化について調査していることを踏まえ、同調査の結果を中心とした分析及び区の関係部署にヒアリングを実施し、そこから見えた課題の整理等や今後の施策の方向性について検討し、令和4年10月に中間のまとめを行った。
- ・ 現在は、中間のまとめに加え、先行文献や国や他機関の研究、令和3年度及び令和4年度のGAHアンケート調査等から6つの分野ごとにコロナ禍において区民の生活習慣と意識の変化についての事象の把握や、GAH指標の属性別の変化等について分析を行っている。

- ・本研究については、全庁にまたがる課題であることから、全庁に対し、令和5年2月に中間のまとめをはじめ、これまでの研究内容について説明会を開催した。今後は意見交換を通じて、コロナ後の課題や区に求められる施策の方向性について検討する。

(3) 区政に関する各種データの集約とデータ利活用に関する研究

- ・区の課題解決に向けた政策立案等に資するため、各所属や研究所等が保有している統計データや各種調査結果、資料等を集約、分類整理し、令和4年10月から、区の庁内LAN上で区職員が自由に閲覧・活用することができる環境を整えた。
- ・また、データを利活用した政策立案を推進するため、データ利活用の必要性や現状と課題等について整理を行うとともに、区職員を対象にデータ利活用に関する認識等を把握するために、令和4年11月にアンケート調査を実施した。さらに、データ利活用に関する国や先進自治体の取り組みについて情報収集を行った。

(4) 住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合（通称：幸せリーグ）運営支援

- ・参加自治体の首長及び職員が、相互に施策等に関する意見交換等を行うことを通じて、住民サービスの一層の充実と幸福度の向上を図ることを目的とする「住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合（通称：幸せリーグ）」の事務局として、区と共同で運営に携わった。
- ・加入自治体数 83（令和5年3月末日現在）
- ・幸せリーグの活動である、主に各自自治体の首長による会全体の運営に関する事項を議論する総会と、実務担当者による情報共有・研究等を行う実務者会議については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を踏まえ、会場での開催を見合わせた。
- ・総会は、書面決議の形式で決算の承認及び役員改選を行った。
- ・実務者会議は、オンラインで令和4年12月に講演会を開催し、「地域創生・SDGsの本質―実学・現場重視の視点から―」をテーマに、東京農業大学教授の木村俊昭氏にご講演を頂いた。また、令和5年2月には、事例報告会を開催し、地方（地域）創生・人口減少（少子高齢化）について、2自治体の取組について共有した。講演会及び事例報告会については、録画し、加入自治体全てに送付し共有した。
- ・また、令和4年12月には、令和3年度に発行した「幸せリーグ寄稿集」（加入自治体首長より、新型コロナウイルス感染症の影響下において、一番力を入れている取り組み等についての寄稿）を更新・活用し、加入自治体間で質疑応答等を行い新たな発想や創意工夫につながる学びの機会を設けた。

2 人材育成事業（定款第4条第1項第2号事業）

（1）区職員の研究員配置

- ・ 研究員として研究所に派遣された区職員3名については、非常勤研究員とともに研究活動に従事することにより、調査研究のノウハウを培うとともに、政策形成能力など職員の総合的な能力の向上に努めた。

（2）GAHに関する区職員研修

- ・ 主任1年目の職員を対象に、GAHの考え方や行政運営への反映等について理解を深め、GAHを基点とした政策形成能力の向上を図るため、区と共同で研修を実施した。なお、今年度は会場での開催は行わず、オンライン講座による受講となった。

- 日 時 令和4年11月11日（金）～令和4年11月24日（木）
- 出席者 49名
- 内 容 GAHの概要や区民アンケート調査の分析例、区政への反映状況等について、研究所の研究員と区（総務企画課）の職員が講師となって説明した。

（3）特別区長会調査研究機構研究プロジェクトへの研究員の参加

- ・ 特別区長会調査研究機構で取り組んでいる研究テーマ「特別区の未来を見据えた子育て支援」に当研究所の職員が参加し、知見を深めた。

3 情報収集・情報発信事業（定款第4条第1項第3号事業）

（1）「GAHレポート」の発行

- ・ GAH調査の結果を分析することで、区民が日々の生活や地域について感じていることなどを把握し、それを広く区民と共有していくため、「GAHレポート Vol. 05～区民アンケート調査の自由記述から見えてくる幸福実感度～」を発行し、配付した。

（2）「荒川区民総幸福度（GAH）推進リーダー会議」の運営

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を勘案し、会議の開催を見合わせた。代替として、GAHについてより理解を深めていただき、今後のGAH推進リーダーの活動に活かしていただくために、GAHに関する研究結果や寄稿（地域力の源泉たる町会・自治会を持続可能にするために）をまとめた冊子を作成し、配付した。

（3）ニューズレター「RILAC NEWS」の発行

- ・ 研究所における調査研究活動の動向を掲載したニューズレター（No. 25）を発行し、区窓口や関係機関に配布し、周知した。

（4）ホームページの運営

- ・ 研究所の概要、研究テーマ紹介、発行物紹介、調査研究活動等の情報を幅広く区内外に発信した。また、区のSNSを通じて、研究所の報告物を発信した。
- ・ 幸せリーグ専用ホームページにおいて、総会や実務者会議の活動状況等を発信した。

（5）荒川コミュニティカレッジとの連携講座

- ・ 荒川コミュニティカレッジとの連携講座にて、GAHの取り組みの講義や地域コミュニティの視点からグループワークを行った。

- 日時 令和4年12月21日（水）午前10時～正午
- テーマ 「私たちや地域の幸せを考える」
- 受講者 6名（荒川コミュニティカレッジ受講生）
- 内容 GAHの概要や取り組み内容についての説明の後、「地域への愛着の実感を高めるにはどうしたらよいか？」をテーマとするグループワークを行った。また、グループワーク後、発表の場を設け意見共有を行った。

(6) 全国の自治体シンクタンク及び特別区シンクタンクとの交流

- ・ 令和4年11月に「第8回自治体シンクタンク研究交流会議」及び「令和4年度特別区シンクタンク等交流会」に出席し、GAHや幸せリーグ等の取り組みを全国の自治体に広めるとともに、交流や意見交換を通じて、研究等に関する幅広い知見を深めた。

(7) その他の情報発信

- ・ 大学や民間団体からの視察対応を行った（11件（内テレビ会議が1件。））
- ※平成21年10月から令和5年3月末日までの視察・取材の実績は543件


令和5年4月18日

監査報告書

公益財団法人荒川区自治総合研究所

理事長 西川 太 一 郎 様

公益財団法人荒川区自治総合研究所

監 事 利根川 弘 衛 

監 事 笹 島 健 司 

私達は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第199条において準用する同法124条並びに公益財団法人荒川区自治総合研究所定款第9条に基づき、同財団の令和4年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告します。

1 監査方法の概要

- (1) 会計監査について、会計帳簿及び関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて実施した。
- (2) 業務監査について、事務局長及び関係職員から実施事業の報告を聴取するとともに、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて実施した。

2 監査結果

- (1) 財務諸表（貸借対照表・正味財産増減計算書）、財産目録及び収支計算書は、会計帳簿の記載金額と一致し、収支状況及び財産状態を適正に表示しているものと認める。
- (2) 事業報告書の内容は適正であると認める。
- (3) 理事の業務執行は適正であり、定款及び諸規程に違反する事実はないと認める。